

令和4年度 第1回 大阪府市文化振興会議 議事概要

- ◆日 時：令和4年7月11日（月）14時から15時25分まで
- ◆場 所：エル・おおさか（大阪府立労働センター）本館7階 709号室
- ◆出席委員：蔭山委員、梶木委員、片山委員（オンライン出席）、志村委員、笑福亭委員、永田委員（オンライン出席）、橋爪委員、原委員、宮崎委員

【概 要】

1 会議の成立について

（事務局）

- ・委員10名中9名の委員の出席により、会議が有効に成立していることを報告

2 会議の公開について

（事務局）

- ・大阪府が定める「会議の公開の指針」を踏まえ、本会議を原則公開とすることを確認
- ・出席委員から異議なく、会議の公開を決定

3 会長及び副会長の選任について

- ・梶木委員から、これまでの議論の継続性等を考慮し、会長に橋爪委員、副会長に片山委員を推薦
- ・出席委員の賛同により、会長及び副会長を決定

4 大阪府市の文化事業について

※片山副会長が所用により途中退席

（橋爪会長）

本審議会として進捗状況を次期計画に向けチェックしていくことが重要。前回の会議で事務局から令和4年度の事業について説明があったが、文化振興計画に関連する施策の指標について府及び市から説明願う。

（事務局）

- ・「資料3-1」、「資料3-2」及び「資料3-3」に基づき、大阪府の文化事業の進捗について説明
- ・「資料4-1」及び「資料4-2」に基づき、大阪市の文化事業の進捗について説明

（橋爪会長）

コロナ禍の中、指標に対する実績値が出揃わない状況もあり、示せるところだけ示してもらっているところ。まずはコロナ前に戻ることが大前提になると思うが、数値目標が立てにくい現状。いろいろご意見だしていただければ。大阪市の令和2年度の寄附件数が増えているのは何か理由があるか。

(事務局)

ちょうどコロナの影響が大きく出だした頃。みんなで文化を助けようという機運が高まったためと推測。

(蔭山委員)

コロナ禍で多くの芸術団体やアーティストがクラウドファンディングをはじめ、様々な資金調達を実施した。大阪の文化を評価する上では、税金だけではなく、社会的な資金がどれだけ投入されたかについて、数字を把握することは難しいかもしれないが、そのような方向に目を向けていくことも大事なポイント。

(橋爪会長)

民間資金を活用とのことだが、新たな財源について府市はどう考えているか。

(事務局)

府の基金については令和4年度から企業版ふるさと納税制度を導入したところ。

(笑福亭委員)

市の寄附の金額はどれくらいか。

(事務局)

「なにわの芸術応援募金」は850万円程度

(橋爪会長)

「大阪府文化振興基金」についても説明を。

(事務局)

「大阪府文化振興基金」は純の寄附とメセナ自動販売機が主な収入源。昨年度は880万円の収入で、内500万円程度が自販機からの収入、約360万円が法人からの収入。

(原委員)

自分の大学にもメーカーを通じて話があった。どのようなところに設置しているのか。

(事務局)

次世代型メセナ自販機は大阪府の施設に、メセナ自販機は各企業に設置している。

(橋爪会長)

大阪市芸術活動振興事業助成金の申請件数が増えているのには理由があるか。

(事務局)

コロナ支援も含めて、予算枠と補助率とを拡充したところ知名度が上がったと考えている。拡充内容は、特別助成に

については上限額 400 万円を 600 万円に。一般助成は上限 20 万円を 40 万円に、助成率を 50%から 100%へ拡充。

3 大阪アーツカウンシルの取組みについて

(橋爪会長)

先に退席された片山副会長から「アフターコロナに重点を置いた調査はぜひやっていただきたい。一方、文化芸術に関わる人の現在置かれている状況の把握も必要」とのご意見があったので紹介させていただく。今年度の大阪アーツカウンシルの取組みについて宮崎委員より説明をお願いします。

(宮崎委員)

・「資料 5」に基づき、大阪アーツカウンシルの取組みについて説明

(橋爪会長)

ただいまのご発言に関し、ご意見やご質問をいただき、この場でこの案を議決することをお願いしたい。

(原委員)

盛りだくさんな内容。1 年間の計画か。

(宮崎委員)

基本的には 1 年の計画。調査・研究に関しては 1 年で発表するという区切りはあるが、万博に向けて継続していきたい。

(笑福亭委員)

補助金事業のスケジュールを教えてください。

(事務局)

「大阪府芸術文化振興補助金」、「輝け！子どもパフォーマー事業補助金」は毎年 12 月～1 月に翌年度事業を募集する流れ。

「大阪市芸術活動振興事業助成金」について、特別助成は年 1 回、一般助成は上期・下期に分けて年 2 回の募集。上期と特別の募集は例年 2 月に募集し、4 月に交付決定。下期は例年 7 月の 1 か月間募集し 9 月に交付決定

(蔭山委員)

低予算の中で事業を行っている状況で大変だと思うが、どう継続していくかも大事。ご無理のないように。

新しいメンバーで若い方もいて、新しい視点で進めていってもらえれば。その中で、自分たちにも随時情報を頂ければありがたい。

(宮崎委員)

現場の声を聞くことを重視したいと考えており、なるべく情報を流すので、それに対してフィードバックいただければと思う。

(梶木委員)

HP の更新や、パンフレットを作って周知を図ることだが、若い世代へは SNS の方が効果あると思う。

(宮崎委員)

SNS の力は大きいと認識しており、写真を随時アップできたり、動画を載せることができたりと、30 代より若い人たちにダイレクトに発信できると感じている。就任後 3 か月経つが、まめに更新してきた結果、徐々にフォロワーも伸びてきており、質の高いフィードバックもいただいている。アーツカウンシルの取り組みを発信することはもちろんだが、府市の文化政策の在り方を問うような投稿もしていき、多くの人の目に触れて、芸術の分野に関わる人が増えていけばいいと考えている。

(永田委員)

宮崎委員にはぜひ頑張ってもらいたい。アーツカウンシルがある利点は、行政のガバナンスとは独立した部分にあって、人の流れを作れることにあると思う。独自のビジョンをもって進めてもらいたい。アーツカウンシルとアーティストと行政の関係性を作るような制度の提言までいけるとなお良いと思う。アートを盛り上げていくためには、行政の協力がいるのはもちろんであるが、それだけでなく民間の力が必要。何かあれば遠慮なく、仕事を言ってほしい。大学のリソースも有効。学生にはエネルギーがあるので、そういったところも活用できるような枠組みをつくっていただければ。

(笑福亭委員)

補助を受ける側に立つと、審査の結果を早くほしいという所がある。補助がもらえるかどうかが決まらないまま事業を進めるのにはリスクがあるというのが実情。募集をもっと早めることはできないのか。

(宮崎委員)

そういった意見もよく理解できる。ただ、府市と話す中で、予算等のスケジュールの都合上可能な最速の日程を組んでやっている状況。ここからさらに前倒しにするのは正直難しい。

(橋爪会長)

文化振興会議は行政の附属機関であり、文化振興会議の一部会であるアーツカウンシルもまた附属機関である。自ら事業をすることができない中で、「評価・審査」「調査」「企画」を活動の 3 本柱とした。「評価・審査」に加えて、「調査」「企画」も大切である。調査を進める過程で次の計画に有益な知見が出てくればと期待している。これまでも民間の法人と連携して、コロナ禍における芸術文化の現状の調査を進めている。今後は、美術館や博物館等と人的なネットワークをつくってもらうことも期待している。ご説明いただいた活動方針で問題ないと思うので、この案で承認を得たこととしたいと思う。以上で本会議の議題は全て終了したところだが、ほかになにかあるか。

(蔭山委員)

民間資金の活用の話に関連して一言。日本の芸術団体はファンドレイジングが弱いと感じている。社会的な制度や仕組みができていないことが原因にあると考えており、国単位で仕組みを作っていくのは難しいと思うが、地方自治体

単位なら独自の仕組みを作っていけるのではないかと考えている。

コロナを機に助成金が拡充されたことでたくさんの文化事業が生まれたという面もあるが、一方で助成金がないとやらないといった、熱のないクオリティの低い事業もたくさん生まれた側面もあると思う。そのレベルでは民間資金は集まらないので、本当にやる気のある団体が、資金を集められるような仕組みづくりを考えていけるといいと思う。

(橋爪会長)

ありがとうございました。本日の会議は以上で終了いたします。

— 以上 —